

香川県高松市は、四国の他の県庁所在地と比較して気温の上昇トレンドの値が著しく大きい事が分かっているが、原因は不明である。本研究はこの原因を同定するため、香川県内と周辺県の気象台・アメダス観測を含め、それぞれの地点の気温トレンドを解析し比較を行った。地点数は香川県6地点、徳島県3地点、愛媛県3地点、兵庫県1地点、岡山県5地点、広島県4地点の計22地点である。解析は気温だけでなく、降水量、日照時間、風速などについても行い、月平均、季節平均、年平均毎にトレンド（100年当たり）を求めた。高松と小豆島の内海の年気温トレンドが大きく（高松：3.89℃、内海：4.02℃）、岡山市と府中市の年気温トレンドが特に大きいという結果になった（岡山：4.38℃、府中：4.55℃）。また、地点ごとに年毎の年平均気温をプロットした結果、どの地点も特に1980年～2000年間の気温トレンドが大きかった。また、高松市の人口が42万人、松山市の人口は51万人、福山市の人口は46万人、とあまり変わらないが、松山市と福山市の年気温トレンドは高松ほど大きくはなく（松山：2.80℃、福山：2.43℃）、高松のトレンドの値に対して1℃以上の差が開く結果になった。しかし、高松の北西約27kmの小豆島の内海は人口も少なく他の地点に比べて、ほとんど都市化した形跡がないにもかかわらず、大きなトレンドを示している。これらから、高松や小豆島の内海の大きなトレンドの原因として、香川北部の何らかの現象があるものだと考えられる。